

何も知らないと、とんでもないことになる？



認知症

家族を救う 治療革命

山野井正之 著 (現代書林刊)

ソフトカバー 232ページ
ISBN978-4-7745-1313-3

定価:1,470円(税込)



あきらめないで！

—患者さんやご家族に寄り添い、決してあきらめない9人の医師たちの認知症治療に取り組む診療最前線を紹介！現状の認知症医療の危うさ、そして正しい診断と治療をすれば、認知症は必ず改善する、そんなメッセージをこめた一冊！！

読者の声

～Amazonより抜粋～

私は理学療法士の立場として、また一家族として認知症の方々に関わっていますが、本人を取り囲む人たちの認知症に対する捉え方は、多くが「年だししょうがない」と諦めているのを痛感しています。(中略)この本が世の中に広まる事によって、一人でも多くの認知症患者さんたち、またそのご家族たちが救われる事を願ってやみません。(KOさん)

認知症には有効な治療法がない、という誤った「常識」を覆されました。「認知症」という言葉すら一般的でなかった頃から患者さんと真剣に向き合い、ついには「コウノメソッド」という画期的な治療法を編出した河野先生はすごいです。患者さんはもちろん、介護に苦勞をする家族を救うという視点が素晴らしい。(ガイストさん)

アルツハイマー型認知症の治療薬・アリセプトがそもそも画一的な用量でしか処方出来ないよう医師を縛っている現実を知った。薬とは、服用する人の症状や状態、あるいは個々の体質までをも考慮し、医師がその裁量で用量を決め処方すべきもの。(中略)団塊の世代が一斉に高齢化し始める今、当事者として、また、見守る家族として、知らないでは済まされない認知症治療の真実と希望が、この一冊にある。(HIさん)

ご注文はこちら

FAX : 03-5540-8976

LOVIA 株式会社 グロービア コンテンツ事業部へ

お問い合わせ(月～金 10:00～17:00) フリーダイヤル 0120-980-558

氏名・住所等必要事項をご記入のうえ、FAXしてください。 数日後に書籍とともに郵便振替用紙をお送りいたします。		送料・手数料無料	冊
ふりがな 氏名 (受取人)	電話番号		
送付先住所 <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 勤務先 〒 -			

わたしたちは「認知症 家族を救う治療革命」を推薦します！

認知症の方の介護に長年携わってきましたが、お世話をさせていただく中でお年寄りから多くのことを学ばせて頂きました。特に、介護する私たちの態度によって、症状が良くも悪くもなる現実を、どれほど多く目の当たりにしてきたか計りしれません。知能や理性が低下した代わりに、感覚面が研ぎ澄まされ、相手の心理状態を瞬時に感じ取る直感性など、教えられたことも少なくありません。ですから認知症の方にはうわべだけの親切や、心が伴わない行為はすぐ見抜かれてしまいます。

私たちは認知症の方々を慈しみ、お世話できることに喜びを持って接しています。しかし、一方で誤った診断や治療の結果、かえって症状を悪化させている場面を散見すると実に残念でなりません。

ここ数年、私たちの現場には、認知症の介護に関する様々な知見が寄せられ、介護の質は一段と向上したように思います。それに比較して認知症に対する治療的な進歩は、必ずしも十分でなかったと言っては過言でしょうか。

本書をお薦めする理由は、私たちの認知症医療に対する見方を一変させたからです。患者さんに寄り添い、真に有効な治療に取り組む医師たちの、診療最前線が数々紹介されています。正しい診断と治療をすれば、認知症の症状は改善するとの示唆に富む内容であり、それは私たちに大きな希望と勇気を与えてくれるものだからです。

是非、多くの方々が本書を手にし、認知症に対する正しい知識と治療について、一層の理解を深めていただきたいと願っています。

日本認知症ケア学会第12回大会 大会長
高齢者総合福祉施設 潤生園 園長 時田 純

認知症をもつ患者さんは高齢化とともに増えていますが、いまだに完治できる方法が見つかりません。現在、様々な研究が行われていますが、決定的な治療薬が発売されるにはまだまだ時間がかかりそうな状況です。今を苦しんでおられる御本人・御家族を救うためには有効な薬剤とともに漢方やサプリメントなどの代替療法を組み合わせ活用し、個々の患者さんごとに最大の効果が上がる方策を見つけていくことが必要です。本書は、認知症に向き合っている医師たちが臨床現場で行っている様々な工夫を紹介しており、読まれる方々の一助になると確信しています。

田平武先生(順天堂大学大学院認知症診断・予防・治療学講座教授)

認知症という病気は、神が人類に与えた試練なんだと。高齢社会の地球人に神が医者に与えた、そして家族に与えた試練、それが認知症なんです。私たちは自分たちを、そして現在の豊かな社会をつくらせてくれたお年寄りたちを、認知症になっても救う気持ちがあるのかどうか試されているような気がして仕方ありません。社会全体でその共通認識が持てるようになったとき、認知症の患者さんも家族も幸せになれるのかもしれない。本書がその一歩となることを願っています。

片山壽先生(片山医院院長・岡山大学医学部大学院臨床教授・尾道市医師会会長)

さらに
Amazonに
レビューが!!

● 認知症は「異変」であり、「的確な治療とケアが必要な病気」です。そのことを知らない医師が多数で、本書に登場される的確な治療に苦労されている医師の方が「異端で後ろ指をさされる存在」なのが哀しい現状です。今、介護で大変な思いをなされている方が、この本を読んで声をあげれば、多くの患者さんを救ってきた「コウノメソッド」が日本の標準治療になる日が少しでも近付く事でしょう。

(海浜さん)

● 介護度5のレビー小体型認知症の母を介護しているものですが、この本に出会い、まだ治療を諦めてはいけなと思いました。(中略)ぜひ多くの医師にも読んでいただきたいです。私の母もそうですが、医師は精神疾患として母を治療しようとしています、認知症として治療しなければならないのではと思いました。母を救う手だてのヒントをいただきました。

(halさん)

● 私のおばが認知症を患っています。今の治療方法にはなんとなく疑問を感じておりましたが、この本を読んで開眼しました。(中略)ぜひセカンドオピニオンとして「コウノメソッド」を実践されている医師に診てもらおうことをおばにすすめてみようと思います。

(亨さん)

※お申し込みは表面の必要事項をご記入のうえ、グロービア コンテンツ事業部までFAXしてください。